

臨床心理士・公認心理師試験対策授業

保育児童学部 講師
修士（教育学） 攪上哲夫

2月6日、大学院「臨床心理士・公認心理師試験対策授業」を、zoomを通して見学しました。冒頭、中島恒雄総長よりご自身の米国留学までの経緯が話されました。先生は、高校、大学ともにエリート校を卒業したわけではなく、学生時代はそれほど勉強もしなかったと話されていました。大学卒業後、四畳半からの英語塾を立ち上げ、15年後に4億5000万円を借り入れ、専門学校を設立したとのことでした。普通、立ち上げた専門学校の経営に専念をするところです。しかし、先生はさらにその先を見通すために、教育者としての生き方・在り方を追究すべく、大学院で教育学を学ぶ道を選ばれたとの講話でした。そのフロンティア先を、日本の大学院ではなく、米国に求め、フォーダム大学大学院へ進学しました。

フォーダム大学大学院での統計学の話へと続きました。先生自身は数学が得意ではなく、統計学の授業は全く歯が立たなかったとのことでした。英語での解説を理解しても、統計学の基礎知識が伴わず、日本語の参考書を取り寄せて理解しようとしたのですが、全くちんぷんかんぷんの状態だったと話されていました。そのままでは「F」評価となり大学院修了の道が閉ざされる、何が何でも試験に合格する、朝から晩まで必死に自学自習を行い、何とか合格することができたと話されました。ご自身のこの成功体験が本学の教育理念の通底にあるのだと思います。できない生徒をできるようにさせて卒業させる、必死になって学ぶことでどの学生も希望する道へ進むことができる、安定した人生を歩むために公務員、教員等の職に合格する、本学では全力を挙げて学生をサポートする、このことが東京福祉大学の教育理念であり、本日の「臨床心理士・公認心理師試験対策」はその具体的な方策としての授業でした。

大島朗生先生の指導の下、大学院生は試験問題を読み、内容を把握する。正解を読み、理解し、暗記する。同じ問題を繰り返すことで試験問題とその内容、正解を理解し、近接領域の問題でも応用できる力が付くということが確認されました。この授業展開が、本学の公務員試験対策等の基本であり、合格への近道に繋がることを確信しました。

授業終了後、中島恒雄総長より本日の授業の講評が話されました。「授業」では問題を理解しても、毎日繰り返し試験問題を勉強することで、定着する。臨床心理士試験にぜひ合格してほしいと大学院生に激励の言葉を送りました。本学は、学生が全員100%合格するようにサポートする、そのために学生は死に物狂いで勉強してほしい、そうすれば学生自身賢くなり、仕事の出来る人間に変化する。東京福祉大学はそういう大学であることを総長先生は熱く講話されました。

本日の臨床心理士試験・公認心理士試験対策授業を見学し、本学の教育理念と具体的な試験対策を再確認しました。